

「研究テーマ」

新聞を活用した多様な学習活動の展開

須磨学園中学校 教諭 吉田勝司

I はじめに

N I E実践の2年目にあたる今年度も昨年に引き続き、教科の授業をはじめ学校行事や長期休暇などさまざまな機会をとらえ、スクラップや新聞づくり、スピーチなどの多様な学習活動に取り組んだ。教科の授業では特に社会科の授業における新聞記事活用に重点をおいて取り組んだ。また、新しい試みとして新聞コンクールにも応募した。

II 実践内容

1. 社会科授業での新聞活用

(1) 新聞記事活用の実際 (第3学年公民的分野)

第3学年の公民的分野の学習では、新聞記事はそのまま「生きた教材」として活用できる。政治制度や経済のしくみなどの説明は抽象的になりやすいが、新聞記事で実例を提示することによって、具体的に理解させられる。

例えば、内閣のしくみを学習した際、授業の導入段階で右の記事から次のようなことを読み取らせてみた。

- ・内閣には大臣は何人いるか。
- ・内閣にはどんな大臣がいるか。
- ・大臣の中で国会議員は何人いるか。衆議院議員か参議院議員か。
- ・国会議員でない人は何人いるか。
- ・これらの大臣はどのようにして選ばれたのか。



【内閣改造を報じた新聞記事】

記事を読み取った後で、教科書の記述や憲法の条文を読ませ、次のことを確認させた。

- ・内閣総理大臣は国会が指名する。
- ・国務大臣を任免する権限は内閣総理大臣にある。
- ・国務大臣の過半数は国会議員でなければならない。
- ・内閣は国会に対して連帯して責任を負う。

このように、新聞記事を活用して、内閣のしくみや国会と内閣の関係(議院内閣制)などを具体的に理解させることができた。

(2) 時事問題レポート

タイムリーな話題がある場合、授業の進度や授業内容との関連があるないに関わらず、時事問題レポートを課している。たとえば、昨年 12 月に行われた衆議院議員選挙および最高裁判所裁判官の国民審査である。生徒は新聞記事を読み、「追跡！2012 衆議院議員選挙」というタイトルのワークシートにまとめていく。生徒が「追跡」しなければならない内容は次にあげる項目である。

- ・自分が住んでいる地域の選挙掲示板を見て選挙区・立候補者名と所属政党名等を調べる。
- ・新聞を読み、選挙結果（選挙区での当選者名、各候補者の得票数、各政党の獲得議席数、投票率など）を調べる。
- ・国民審査にかけられる裁判官名と国民審査の結果を調べる。
- ・選挙に興味を持ったことや感想を書く。

<生徒のレポートの感想から>

- ・ふだん進んで興味を持って調べたり考えたりしないことだったので、授業で選挙のことを習ったときはいまいちピンとこなかったけれど、今回詳しく調べることができました。
- ・投票率が戦後最低ということにビックリした。すごく大切な選挙なのになぜみんな行かないのだろうと思った。
- ・最寄り駅前で野田佳彦さんと石破茂さんの演説があり、聞きに行った。有権者の反応をじかに感じた。聴衆の盛り上がり、応援がぜんぜん違った。

(3) 1分間スピーチ (第1学年 社会科)

第1学年では、社会科の授業の中で新聞記事を使った1分間スピーチを行った。発表用シートには自分が選んだ新聞記事を貼り付け、記事の要約と自分の意見をまとめる。シートは印刷して全員に配布する。

【S1 社会科 公民 冬季課題レポート】

追跡！2012 衆議院議員選挙

S1 (2) 組 (24) 番 氏名 ()

【課題1】選挙掲示板を見よう！

(1) 12月16日に投票が行われる参議院議員通常選挙をひかえ、町のあちこちに下のような選挙掲示板が立てられています。まず、この掲示板に追ってみましょう。どんな候補者のポスターが貼ってあるのか、しっかり見ておこう。

参議院議員 通常選挙	⑨	⑦	⑤	③	ポスター ①
注意書き	⑩	⑧	⑥	④	②

(2) ポスターの候補者の名前、所属政党名、推薦政党などを調べよう。

候補者の名前	所属政党・推薦政党、無所属の別
① 石井としろう	民主党公認
② 日大なか光成	みんなの党公認・日本維新の会推薦
③ 赤本の成よし	日本共産党
④ やまだ賢司	自由民主党公認・公明党推薦
⑤	
⑥	
⑦	

(3) あなたの住んでいる地域はどの選挙区に属していますか。
※兵庫県は全部で12の小選挙区に分かれています。

兵庫 7 区

【時事問題レポート表紙】

反発の中国内初飛行

米軍岩洞基地 沖縄配備準備

オスプレイ

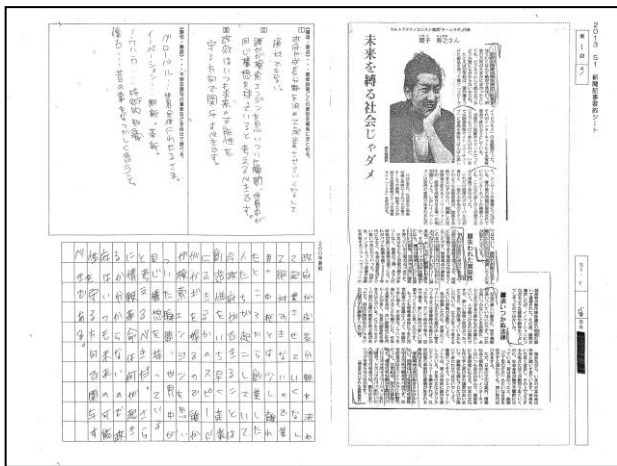
米軍は、アメリカの領土に配備されるオスプレイの試験飛行が、12月16日に沖縄県名護市にある岩洞基地で行われた。この飛行は、オスプレイが初めて中国の領土に飛行したことになる。米軍は、この飛行を通じて、オスプレイの性能を確認し、配備の準備を進めている。一方、中国は、オスプレイの配備に強く反対しており、領土侵犯と見做している。この飛行は、米中関係の緊張をさらに高めていると見られる。

12月16日、沖縄県名護市にある岩洞基地で、米軍のオスプレイが試験飛行を行った。この飛行は、オスプレイが初めて中国の領土に飛行したことになる。米軍は、この飛行を通じて、オスプレイの性能を確認し、配備の準備を進めている。一方、中国は、オスプレイの配備に強く反対しており、領土侵犯と見做している。この飛行は、米中関係の緊張をさらに高めていると見られる。

【1分間スピーチ用シート】

2. 新聞記事の書き写しと要約（学年活動）

本校では、語彙力や文章の構成力、理解力などの「言葉の力」を身につけさせるために、第1学年と第2学年の生徒に対し、新聞コラムの書き写しを以前から週課題としている。2013年度からは第3学年でも新聞記事の要約を週課題とする取り組みをスタートさせた。要約の対象となる記事は国語科の教員が選び、ワークシートを作成する。生徒は配布された「新聞記事要約シート」に、①記事の構造、②語句・熟語、③200字要約を記入するという方法をとっている。



【新聞記事要約シート】

3. 学校行事とリンクさせたスクラップと新聞づくり（第2学年 アジア研修旅行）

本校では第2学年でアジア研修旅行を実施している。今年度は3月に台湾・香港・ベトナム・マレーシア・シンガポールを訪れた。最大の目的はベトナムとマレーシアでの現地校との交流会であるが、そのほかにも現地の博物館や史跡の見学を通して、東南アジア諸国の歴史や文化を学ぶことも重要な目的としている。

そこで第2学年では、アジア研修旅行の事前学習として新聞記事のスクラップと事後学習としての新聞づくりを行った。

（1）新聞記事のスクラップ

アジア研修旅行の事前学習として、出発前の約1か月間、訪問する国・地域を中心にアジア諸国に関する新聞記事をスクラップすることを課題とした。

これによって、少しでもアジア諸国や日本との関係についての関心を高められたのではないかと思う。

（2）アジア研修新聞づくり

第1学年では、長崎研修(平和学習)の事後学習として、グループで新聞づくりを行った。今年度は春休みの課題として、アジア研修旅行で体験したことや感じたことなどを、生徒一人ひとりがB4サイズ用紙1枚の手書き新聞にまとめることとした。

完成した新聞は、6月に行われる文化祭で展示する予定である。



【生徒作品 アジア研修新聞】

4. 新聞コンクールへの応募（夏休み課題）

第2学年と第3学年では、夏休みの課題として日本新聞協会が主催する「第3回いっしょに読もう！新聞コンクール」に応募した。このコンクールは、生徒が各自の感想・意見を書くことだけにとどまらず、友達や家族など周囲の人の意見も聞いて、より深く考えることを目的の一つとしている。

提出された応募シートを読んでいると、夏休み中ということもあってか、多くの生徒が保護者に意見を求めていることが分かった。新聞記事を通して、家族とのコミュニケーションを促すことにつながったのではないかと思われる。応募の結果、各学年から1名ずつ奨励賞をいただいた。

5. 新聞記者派遣による講演会

第2学年を対象にした記者派遣講演会を10月22日に行った。今年度は「新聞記事の書き方」というテーマで神戸新聞社・社会部デスクの田中伸明氏に講演をしていただいた。講演では、田中氏から取材のコツや「5W1H」という新聞記事の構成の説明を受けた後、生徒は、ホームページを通じた学校への脅迫事件を想定し、新人記者になったつもりで容疑者逮捕の記事原稿を書いた。田中氏からは容疑者の言い分もきちんと取材しないといけないと助言を受けた。

<生徒の感想から>

私は今回の新聞記事の書き方の講演を聞き、同じことでも書き方によって受け取り方が大きく変わるということが分かりました。容疑者を一方的に悪くしないように、詳しいところまで取材しなければいけないことを知り、簡単にものごとの最初だけを聞いて判断するのではなく、ちゃんと

考えなければいけないと思いました。…中略…字数や読み手、当事者のプライバシーを全て考えるのは大変だと思いますが、記事を書くのは面白いなと思いました。



【田中氏から事件の想定を聞く生徒たち】

III 実践の振り返りと今後の課題

「新聞を活用した多様な学習活動の展開」というテーマで2年間実践を続けてきた。文字通り、各教科の授業や行事、特別活動などの教育活動の様々な場で、新聞を活用して「読む・書く・聞く・話す・調べる・つくる」といった多様な活動を試みた。反省すべきことは、それぞれの活動が個々ばらばらな取り組みであって、体系化できていないことである。今後の課題は、これらの様々な活動を改善しつつ継続することである。また、それぞれの活動の目的・目標・内容・方法などを整理し体系化して、学校の中にNIEカリキュラムとして定着させていくことだと考える。